

令和 2 年度

教育委員会事務事業の点検及び評価報告書

(令和元年度事務事業)

令和 3 年 1 月

増毛町教育委員会

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見も活用しながら、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっております。

このことから、増毛町教育委員会では、「増毛町教育事務執行の点検及び評価等に関する規程」により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対する説明責任を果たすため、「教育に関する点検及び評価」を実施し、報告書をまとめました。

増毛町教育委員会としては、点検・評価の実施を通じて施策の効果的な検証と積極的な改善を図りながら、教育行政施策の着実な推進に努めてまいりたいと考えていますので、皆さんの一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和元年度 教育委員会事務事業の点検及び評価

【学校教育】

本町においては、小学校1校（児童161名）、中学校1校（生徒82名）、幼稚園は、保育所と統合し、平成31年4月から認定こども園（園児82名）として開園し、新たな体制となりました。各校、そしてこども園に在籍する児童生徒、並びに、幼児一人ひとりの個性と能力を伸ばし、心豊かで自主・自律の精神を身に付け、地域社会の形成者として必要とされる資質を養うことを目的として学校教育の推進を図ります。

（1）教育の充実

社会が目まぐるしく変化していく時代、子どもたちが将来自立した人間として生きていくためには、基礎的・基本的な知識と技能を確実に身に付け、それらを活用できる学力を育むことが重要であります。

そのためには、各学校において、学習指導要領に基づき、意欲的に学習し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力などを身に付けることができるよう努めます。

また、教員は教育への情熱や指導力などの資質の向上が不可欠であり、広い視野、視点から自己研鑽を促し、指導力を高める校内、校外研修の充実を図ります。

（主要事業）

事務事業名	事業内容及び点検・評価
教育支援員の配置	<ul style="list-style-type: none">・学校教育活動支援員 児童生徒のいじめ・不登校及び学校諸問題への対策として、支援の充実を図った。 中学校1名 学校の諸問題について指導助言、支援を行い、教育活動の充実が図られた。・学習支援員 児童生徒の学習効果を高めるための学習支援や、学校生活へのより良い適応を図るための支援の充実を図った。 小学校2名、中学校1名 学習支援を行うことにより学習効果が高まり、学校生活への適応が図られた。・特別支援教育支援員 特別な支援を必要とする児童生徒個々に対応した適切な教育支援体制の充実を図った。 特別支援学級数 小学校 4学級（児童 7名）

	<p>中学校 2学級（生徒 2名） 計6学級（児童生徒 9名）</p> <p>特別支援教育支援員を小学校に2名配置し、支援指導体制の充実が図られた。</p>
少人数指導教育の推進	<p>指導方法工夫改善事業の教員加配により、チーム・ティーチングや少人数による習熟度別学習指導を行い、効果的な教科指導が図られた。</p> <p>実施校 中学校（指導方法工夫改善加配1名） 指導教科 中学校（国語、数学、英語）</p> <p>基本的な学習の定着を目指して実施しているが、今後も継続して実施が必要と考えている。</p> <p>なお、次年度以降も小中両校において加配の配置を道教委へ要望することとしたい。</p>
外国語教育の充実	<p>小学校3、4年生の外国語活動と、5、6年生の外国語科の授業において、これら英語教育の充実を図るため外国語指導助手を配置し、各小中学校、認定こども園への巡回指導のほか、社会教育分野での事業展開を行っている。</p> <p>巡回指導では、英語担当教員と連携した指導を行うことで、授業の充実が図られた。また、巡回指導以外での活動をとおして幅広い世代の町民が英会話に親しむことができた。</p>
長期休業中の学習機会の拡充	<p>夏季・冬季休業期間にサポート事業を実施し、元教員により自習の補助を行った。</p> <p>夏季休業 ・7月25日～26日、8月15日～16日 会場：小学校 小学生227名参加（全学年） ・7月23日、8月5日 会場：中学校 中学生70名参加（全学年）</p> <p>冬季休業 ・12月26日～27日、1月16日～17日 会場：小学校 小学生197名参加（全学年） ・12月23日～24日 会場：中学校 中学生62名参加（全学年）</p> <p>基礎・応用問題を習熟度に応じ、個々に取り組むことにより、基礎学力の向上を今後も図って行きたい。</p>
学校図書活動の充実	<p>計画的な図書購入により学校図書の充実を図った。</p> <p>図書購入費 小学校820千円 中学校155千円</p> <p>各学校で朝読書等の図書活動を行っているが、読書が生活の一部として習慣づけが、まだまだ不十分であり、今後も学校図書を充実し、図書活動を進めて行きたい。</p>

<p>要保護準要保護就学援助事業</p>	<p>生活保護受給世帯及び生活保護に準じた援助が必要な世帯の児童生徒に対し、学用品費、給食費、修学旅行費などの就学援助を行い、保護者の経済力による教育格差の是正を図った。</p> <p style="text-align: center;">小学校 7名 6世帯 339千円 中学校 5名 3世帯 335千円</p>
<p>健康診査の実施</p>	<p>学校保健安全法に定められた児童生徒の健康診断（内科、歯科、心電図、脊柱側弯症）を実施した。</p> <p>また、教職員の健康診断を実施し健康維持管理を図った。</p> <p>今後も法律の規定に基づき、児童生徒の健康診断を実施するとともに、教職員の健康診断についても、学校教育の円滑な実施とその成果の確保に資するため実施する。</p> <p>教職員健康診断の実施については、町職員の検診実施機関に依頼し経費の軽減と事務の効率化を図られた。</p>
<p>給食事業</p>	<p>各学校において、栄養バランスを考え、美味しい自校給食を行った。更に、地元食材を使用した「まるごと増毛 DAY」の日を設け、食をとおして郷土への理解が深まった。</p> <p>また、栄養教諭が各学校を巡回し、食育指導の推進を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食設備維持費、人件費等の公費負担経費 <li style="padding-left: 20px;">小学校費 9,031千円 <li style="padding-left: 20px;">中学校費 7,475千円 ・栄養教諭巡回 <li style="padding-left: 20px;">献立打ち合わせ 月1回（全校） <li style="padding-left: 20px;">食育授業 各学期に1回（学校要請による） <p>適切な衛生管理・栄養管理のもと、学校給食の運営を行うことができた。</p>
<p>防災指導</p>	<p>災害等の発生時に冷静・敏速・安全に行動ができるよう、各学校において避難訓練を実施することにより、児童生徒及び幼児の防災意識を高めることができた。</p> <p style="text-align: center;">小学校 火災 6月17日、地震津波 9月2日 中学校 地震津波 9月2日 こども園 地震津波 5月15日、9月2日 火災 2月12日</p>
<p>教育振興会事業</p>	<p>町教育振興会が主催となり、児童生徒の学習意欲を高め、学習成果を上げるため、教育機器の活用及び学習方法の研究や児童生徒の問題について実践研究を行い、教職員の職能向上と教育内容の充実に努めた。また、小中の連携を一層進め、児童生徒指導及び学習指導の充実に努め、学習成果をとおして学校間の親睦と交流を深める</p>

	<p>ため各事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画書道展 元陣屋・オーベルジュまじけ ・ 特別委員会及び推進委員会 <ul style="list-style-type: none"> ○ ICT推進委員会 学習用アプリ教員研修等 ○ 小中連携教育推進委員会 「家庭学習の手引き」の作成等 ・ 研究体制 教科班8班・教科外2班 ・ 一斉研修 研究計画の実践・研究のまとめ ・ 中学校学力向上事業（新規事業） <p style="margin-left: 2em;">中学生の英語力の向上、及び学力の到達度を把握するための模試に対する受験料（1回分）の助成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 英語検定 受験生徒 32名（2回実施） ○ 北海道学力コンクール 受験生徒 7名（1回実施） <p style="margin-left: 2em;">各事業を通じ、地域的連帯感を育み、児童生徒の学習意欲の向上が図られた。</p>
ICT 教育の環境整備	<p>ICT教育を推進するため、環境整備と教育用タブレットにより、アプリを活用した授業環境の整備などによりICT教育推進の基盤構築に取り組んでいる。</p> <p>また、GIGAスクール構想のためのICT環境整備工事を行い、校内LAN整備を実施した。</p> <p>小学校 7,945千円 中学校 6,402千円</p>
教材備品の整備	<p>児童生徒の教科指導に必要な学習教材備品の購入・更新を行い、教育環境の充実を図った。</p> <p>小学校 教材備品の購入 331千円 中学校 教材備品の購入 253千円</p>
教材費の助成 （保護者負担の軽減）	<p>児童生徒の教科指導に必要な一般教科費の助成を行い、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>小学校 消耗教材費助成 616千円 児童1人4,000円×154人 道徳・総合的学習消耗教材費 95千円</p> <p>中学校 消耗教材費助成 320千円 生徒1人4,000円×80人 道徳・総合的学習消耗教材費 30千円</p>
学校給食費の一部負担 （保護者負担の軽減）	<p>平成29年度から学校給食費の一部（主食、牛乳の購入に係る経費等）を助成することで、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>助成金額 小学校 2,474千円 中学校 1,379千円</p>

<p>児童生徒の傷害保険掛け金の全額負担 (保護者負担の軽減)</p>	<p>学校やこども園生活における児童生徒、幼児の負傷等に対応するため、日本スポーツ振興センターの災害共済に町費で加入し、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>加入金額 こども園 24千円、小学校 151千円、 中学校 77千円</p>
<p>スキー授業への援助 (保護者負担の軽減)</p>	<p>冬期間の体育授業(スキー学習)におけるリフト使用料の全額援助を行い、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>援助額 小学校 408千円 中学校 228千円</p>
<p>中体連参加費の助成 (保護者負担の軽減)</p>	<p>管内大会及び全道・全国大会参加費用の助成を行い、保護者の負担軽減と部活動の推進を図った。</p> <p>管内大会 全額助成 200千円 全道・全国大会 参加料・交通費全額助成、宿泊費一部助成 助成額 824千円 出場種目 (団体) サッカー、吹奏楽 (個人) 陸上、卓球、剣道、スキー</p>
<p>中学校武道必修化に伴う柔道着の整備 (保護者負担の軽減)</p>	<p>平成24年度から中学校体育授業において柔道が必修となったため、1年生に対し柔道着を町費で購入し、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>購入費 140千円</p>
<p>小学校新入学児童へのランドセルの寄贈 (保護者負担の軽減)</p>	<p>令和2年度の新入学児童へ、小学校の1日入学時にランドセル(ナップランド)の贈呈を行い、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>小学校新1年生 児童数 26名 184千円 平成6年から行われているこの事業は、保護者にも定着しており事業継続が望まれる。</p>
<p>中学校新入学生徒へのカバン、ジャージの寄贈 (保護者負担の軽減)</p>	<p>令和2年度新入学生徒へ、入学祝い品としてカバン・ジャージの贈呈を行い、保護者の負担軽減を図った。</p> <p>中学校新1年生 生徒数 25名 571千円 平成26年から行われているこの事業は、保護者にも喜ばれており、事業の継続が望まれる。</p>
<p>スクールバスの運行</p>	<p>遠距離通学児童生徒の登下校のためにスクールバスを運行のほか、各種校外活動等においてもスクールバス運行を行った。</p> <p>安定したバス運行により乗車する児童生徒の登下校の安全確保が図られた。</p> <p>また、長期休業中の部活動においてもバスを運行し、保護者負担の軽減と教育活動の充実が図られた。</p>

学校評議員の設置	<p>平成14年度から小中学校に、保護者・地域住民等で構成される学校評議員を設置し、評議員の意見をもとに、地域に根ざし、ひらかれた学校運営が推進された。(任期1年)</p> <p>小学校 5名、中学校 4名</p>
増毛町教育振興会への助成	<p>児童生徒の指導研究を行う「増毛町教育振興会」への助成を行い、教職員の指導力向上、教育環境の支援と充実を図った。</p> <p>増毛町教育振興会 396千円</p>
幼児教育・保育の充実	<p>平成31年4月に「幼保連携型認定こども園あつぷる」として開園した。入園児一人ひとりを大切に、特性に応じて心身ともに健康で明るく生活できるようまた、就学前の教育の充実に努めた。</p> <p>また、保護者負担軽減策として、保育料の完全無償化を実施した。</p> <p>教員数 園長1名 保育教諭19名 公務補1名 米養士1名 調理員3名 計25名</p> <p>就園児数 0歳児1名 1歳児7名 2歳児6名 3歳児16名 4歳児28名 5歳児24名 計82名</p> <p>さらに各家庭との連携を図り、保護者の幼児期の保育・教育に関する理解を深めてもらい、保護者がこども園と共に幼児を育てるという意識を高めることができた。</p>
高等学校生徒への通学費の助成	<p>増毛高校の閉校に伴い、留萌市内の高校へ通学する生徒の保護者に対し通学費の助成を行い、対象家庭の経済支援を図った。</p> <p>助成生徒数 71名 助成総額 6,171千円</p>

(2) 学校施設等の環境整備

児童生徒が、安全・安心でより快適な学校生活を送れるように、学校施設の補修・改修を行います。

また、老朽化している町内の教職員住宅の補修、設備備品の更新を行い、教職員の生活環境の改善を図ります。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
各学校の維持管理補修	<p>学校運営に欠かせない校舎・設備等の修繕を行った。</p> <p>こども園 計 345千円 ・木製建具窓修繕ほか</p> <p>小学校 計 997千円 ・地下タンク液面計取替ほか</p>

	<p>中学校 計5,406千円</p> <p>・屋上塗装ほか</p> <p>児童生徒が安全に学校生活を送れるように、限られた予算のなかで教育環境の改善を図っている。</p>
<p>教職員住宅の環境整備</p>	<p>教職員住宅の改修・設備備品等の更新を行った。</p> <p>教職員住宅修繕費 570千円</p> <p>設備備品等修理費 167千円</p> <p>教職員住宅に居住する教職員の生活環境の改善を図っている。</p> <p>今後も計画的に進めていきたい。</p>

【社会教育】

平成29年度から、第八次増毛町社会教育中期計画に沿って単年度ごとの増毛町社会教育推進計画を作成し、社会教育を推進しております。

増毛町社会教育の目標は、「増毛町民の誓い」を基本とした実践活動をとおして「住んで誇りに思える故郷」の具現化につなげるために、地域に親しみ、人と人との確かなつながりによって、町民相互の交流が深まるような教育活動の推進を図っております。

各事務事業の実践においては、常にPDCAを繰り返しながら町民の皆様の学習意欲に応えるべく取り組んでおります。

また、町民への社会教育の事務事業の周知活動として、社会教育事業の広報紙「社会教育だより」を毎月発行しております。

(1) 学習や社会参加への意欲を高める生涯学習活動の推進

町民の皆さんが生涯にわたり生きがいとゆとりを求め、自らの資質向上のための学習活動を助長できるように各種情報を提供するとともに、各施設を有効利用しながら生涯学習活動の推進に努めております。

また、人口減少などにより、一人ひとりの行動や考える力の重要性が顕著となっておりますので、家庭教育情報紙「親子の時間」の定期的な配付により「家庭・地域・学校」での連携した家庭の教育力の向上に重点をおいて取り組んでおります。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
暑寒大学・こども園交流会 [幼児・高齢者]	11月15日、文化センターで幼稚園児・父母・暑寒大学との世代間交流を目的として開催する予定だったが、暴風雪のため中止とした。 核家族化が進行する中、高齢者と一緒に活動することは、幼稚園児の世代にとっては互いに助け合い、いたわり合う心の育成が図られる大変貴重な体験であり、今後も継続する必要がある。
家庭教育の推進 [幼児・少年・成人]	家庭教育に関する情報紙「親子の時間」を毎月広報の発行日に全戸に折込み、家庭教育の重要性を醸成している。 月1回、全12回発行
中学生の国内研修 [少年]	3月25日～3月28日、関東方面へ3泊4日の研修を予定していたがコロナ感染症拡大により中止した。この事業は中学1～2年生が普段体験できない歴史や文化に触れることにより、意義のある研修となり大変貴重な体験となるため、今後も継続する必要がある。
ましけキッズ体験隊 [少年]	小学生全学年を対象とした事業として、低学年・中学年・高学年の3クラスに分けてそれぞれ事業を実施した。 クラスごとに活動目標を定め、年間の体験活動を通じて少年の育成を推進した。 事業内容は、低学年は親子工作・日帰り研修・親子で楽しい実験など、中学年は基礎工作・日帰り研修・ハイキング（リンゴ狩り）など、高学年は基礎工作・釣り体験・宿泊研修・ごだらっぺ王国祭実行委員会などの事業を行った。 参加者は、低学年13名と保護者、中学年24名、高学年21

	<p>名。参加者からは貴重な体験や経験を積むことができると好評な事業のため、今後も継続する必要がある。</p>
<p>子ども会ジュニアリーダー宿泊研修 [少年]</p>	<p>8月1日～2日、大雪青少年交流の家に宿泊し、旭川市・美瑛町・富良野市・滝川市で研修を実施し、小学5、6年生19名が参加。</p> <p>団体活動で子ども同士の交流を深めることによって、仲間を思いやる心や最後までやり抜く精神力や身体を育て、リーダーの育成を図ることができた。</p> <p>この事業に参加した子どもは、ごだらっぺ王国祭の実行委員として、ましけキッズ体験隊の中学年の24名と共に、9月23日の王国祭の事業では実行委員として企画・立案したゲーム進行や出店で積極的に活動した。</p>
<p>少年の主張大会 [少年・成人]</p>	<p>小学生4名、中学生3名の発表者により、11月23日文化センターで開催した。</p> <p>聴衆の前で自らの考えを発表することは貴重な体験であり、今後も小・中学校と連携を図りながら継続する必要がある。</p>
<p>ごだらっぺ王国祭 [少年]</p>	<p>9月23日文化センター及び体育館で開催した。小学5、6年生20名と4年生12名の実行委員が企画し、子ども会育成員・教育委員会職員とともにゲーム・出店の運営を行い、町内の幼児・小学生・保護者等294名の参加があった。</p> <p>30年以上続く幼児・少年の事業であり、子どもたちも毎年楽しみにしているが、町内の子ども会の大幅な減少による運営スタッフの確保、少子化によるゲームの運営やゲームと出店の時間調整など問題点も多く、大幅な運営の見直しが必要である。</p>
<p>青年交流会 [青年]</p>	<p>町内在住又は勤務をしている18歳から40歳代の青年を対象に、仲間づくりや交流の場を提供し、様々な交流活動を行う事業。</p> <p>自分の住む地域に誇りと愛情を持ち、青年団体の育成、リーダーの養成を目的としている。</p> <p>6回開催し、延べ71名の参加があった。</p> <p>継続性のある青年・成人領域の活動を図るためには、青年・成人が自ら意欲的に事業に関わる組織や集まりやすい場づくりの取り組みが必要と思われる。</p>
<p>英会話教室 [成年]</p>	<p>生の英語に触れ合う機会を提供するため、町のALTによる英会話教室を、全19回の日程で開催した。</p> <p>あいさつなど基本を中心にした英会話や時には歌も交えながらのレッスンであったため、楽しんで参加していた様子が伺えた。今後も継続して開催していきたい。参加者延べ123名。</p> <p>引き続きALTの有効活用と参加者の増を図っていきたい。</p>
<p>さくらコミュニティ学級 [女性]</p>	<p>町内の70歳までの女性を対象に、毎月第2火曜日に学習会や実技講習などを年12回開催し、趣味・料理教室・研修旅行等の学習会などを行い、男女共同参画社会への推進を図った。今後も豊かな人間性を培うとともに生活の向上に努めたい。</p> <p>学級生数は38名。</p> <p>人口減少等により新入生の確保が難しい状況にあり、入学生の確保のための工夫が必要である。</p>
<p>暑寒大学</p>	<p>町内の65歳以上の方を対象に、学習会・講演会・施設見学な</p>

[高齢者]	<p>ど毎月第2、第4金曜日に年22回の行事を実施した。</p> <p>趣味・レクリエーション・健康等の学習会などの開催に努め、高齢者の団体活動の楽しさを感じられる事業を中心に行った。</p> <p>近年、男性の入学者が増えたことで学生間の交流が活発になった。今後は更に参加しやすい環境整備を図っていきたい。</p> <p>学生数は56名。</p>
-------	--

(2) 地域文化の創造を目指す芸術文化活動の推進

芸術文化は、人々に感動や安らぎをもたらし、豊かな人間性と心に潤いをもたらすものであり、欠かすことのできない役割を担っております。

活動の拠点として、文化センター、総合交流促進施設「元陣屋」及び創作の館が、より身近に親しむことができるように、文化協会をはじめとする関係団体と連携を図りながら芸術文化活動を推進しております。

また、重要文化財「旧商家丸一本間家」や、北海道指定有形文化財の「巖島神社」については、増毛町の重要な観光施設としての側面も考慮し、増毛町の歴史を内外へ発信しながら、保存・活用に努めております。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
増毛町文化祭	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示（出品5団体） 10月26日～11月1日、元陣屋で開催した。 ・舞台発表（出演5団体） 10月27日、文化センターで開催した。 <p>文化協会と共催し、文化活動の奨励と発表・交流の場をつくり、創造性豊かな心のかん養が図られるよう展示、舞台部門をそれぞれ開催した。文化協会の活性化を図る必要がある。</p>
芸術鑑賞会	<p>日常鑑賞することの少ない舞台芸術を開催することで、芸術文化に対する啓発が図られた。</p> <p>今年度は中学校で桂枝光氏による公演「上方落語の会」を実施し、中学生82名・小学4年生22名の児童生徒が鑑賞した。</p>
全町書き初め大会	<p>1月13日町立体育館で開催、参加者43名。</p> <p>町文化協会と共催で実施。事業の周知及び教育関係者の協力を得て、近年は参加者が安定している。</p> <p>今後も継続する必要がある事業である。</p>
団体・サークルへの支援援助	<p>増毛町文化協会（加盟26団体）へ、総額117千円の助成を行った。</p>
重要文化財 旧商家丸一本間家の公開	<p>一般公開期間：4月19日～11月6日</p> <p>入館者は7,670名（前年度比2,179名減）</p> <p>入館者の増加につなげるため、一般公開中に継続して芸術文化鑑賞事業を実施した。</p> <p>「増毛町地域の文化創造推進事業」</p> <p>本間家ミニ縁日の開催 5月25日、26日 参加者数延べ2,765名</p> <p>茶菓サービスの日 7月6日、7日 参加者数延べ181名</p>

	<p>常設展：「九谷焼の魅力展」 4月26日～11月6日開催 参加者延べ7,670名</p> <p>観光施設としての側面もあり、次年度も、重要文化財に更に親しんで頂くようイベント等の企画に取り組んでいきたい。</p>
史跡標柱の設置	<p>増毛町指定史跡のうち29カ所に標柱の設置を行った。 (設置4月16日～撤去11月7日)</p> <p>また、町内の史跡を紹介する「史跡マップ」を町内拠点施設等に配布した。</p>
ましけ町民スクールへの助成	<p>ましけ町民スクール運営委員会へ1,000千円の助成を行った。また、同団体との共催により、5回の講座を実施した。</p> <p>第1回 6月20日 テーマ：健康(参加者126名) 野村義博氏(減塩委員会アドバイザー)</p> <p>第2回 8月29日 テーマ：音楽(参加者88名) 能登谷安紀子(ヴァイオリニスト) 野瀬栄進(ジャズピアニスト)</p> <p>第3回 9月24日 テーマ：伝統文化(参加者90名) 桂志光(落語家)</p> <p>第4回 10月11日 テーマ：経済・金融(参加者55名) 山田真哉氏(公認会計士・税理士)</p> <p>第5回 11月19日 テーマ：スポーツ(参加者350名) 西川遙輝氏(北海道日本ハムファイターズ) 杉浦稔大氏(北海道日本ハムファイターズ)</p> <p>「住民による住民のための開かれた学習の場」として開催されている講座だが、近年は娯楽性の強い講座や健康に関する講座も盛り込み、総合的な文化事業として町民に浸透している。</p>
文化財保存団体への助成	<p>増毛町指定無形文化財「雄冬神楽」保存会へ63千円の助成を行った。</p> <p>また、北海道指定有形文化財「巖島神社本殿」所有者である宗教法人巖島神社へ17千円の助成を行った。</p>
増毛の民話伝承会の育成・公演	<p>全13話ある影絵紙芝居を活用した民話の伝承を「増毛の民話伝承会」が観光客や地元団体等の要請により、公演として行っている。【公演回数：13回 観客数：587名】</p>
旧商家丸一本間家関連資料の調査と活用	<p>閉館作業終了後、臨時職員1名により本間家に関連する文書、書簡資料及び陶器、漆器などの生活資料の掘り起しを行った。</p> <p>様々な書簡や連絡資料などにより、明治末期から昭和初期における本間家の取引関係や親族との付き合い、当時の物価や建物の変遷などが徐々に明らかになっている。</p> <p>新たに判明した資料については、次年度以降の企画展の開催において主要な展示として活用していくとともに、来館者への説明資料としても活かしていく。</p>

(3) 健康で活力ある生活を目指すスポーツ活動の推進

高齢化により、体育協会の会員数の減少など町内のスポーツを取り巻く環境は厳しい状況に向かっていますが、スポーツ活動は、身体を動かすという人間の根源の欲求に應えると

ともに、精神的充足や楽しさをもたらすものであり、心身ともに健康で豊かな生活を送れるよう、生き生きとしたスポーツ活動の実現に向け、スポーツ推進委員及び各種関係団体と連携を図り、現状に見合うスポーツ活動の推進に努めております。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
スポーツ団体への支援援助	<p>① 体育協会への助成 加盟10団体、会員数235名、425千円の助成を行った。スポーツ関係団体が、高齢化や会員の減少傾向にあることから、継続して事務局を担い団体の育成・強化に努めた。</p> <p>② スポーツ少年団本部 加盟6団体、会員数93名、280千円の助成を行った。また、事務局を担い、各少年団の連携を図っている。</p>
第9回健康づくりウォークラリー	<p>新たな健康づくり事業としてウォークラリーを開催し9年目を迎えた。63名が参加。 6月30日に町内の約5kmのコースをオリエンテーリングし、ゴール後は文化センターで軽食を食べて、参加者の交流を図った。 事業が町民に浸透し、安定した参加者数があり好評のため、今後も継続して実施する必要がある。</p>
ましけラン2019	<p>8月18日暑寒公園をスタート・ゴールとして実施した。 1.8km、3.2km、5.0km コースに135名の参加申込みがあり、当日は122名が出場した。 コースを暑寒沢コースに戻して2年目の開催となったが、今後も関係者と協議し工夫しながら更に一層の活性化を図りたい。</p>
スポーツ交流大会 (委託事業)	<p>① 32回増毛リトルカップサッカー大会(主催:サッカー連盟) 男子小学4年生以下及び女子小学生を対象とした全道でも歴史ある大会。 8月10日～11日開催、全道各地から12チーム、選手184名参加。</p> <p>② 第30回サーモン杯争奪ミニバレーボール大会 (主催:ミニバレーボール連盟) 9月23日開催、留萌・羽幌・幌延など近隣市町村から12チームのミニバレー愛好者58名が参加し、増毛町を会場に開催されている伝統ある大会となっている。 各種スポーツ交流大会については、町外からの参加者にとっても好評な事業となっており、増毛町への交流人口の拡大に向けても期待できる事業であるため、今後も継続して実施する必要がある。</p>

(4) 社会教育施設・スポーツ施設の活用推進

住民の多様なニーズにあった学習や交流の場ができるよう、文化センター、総合交流促進施設「元陣屋」及び創作の館の運営充実に努めております。

また、スポーツ活動の推進を図るため、体育館、屋内グラウンド、温水プール及び学校体育館の開放充実を図っております。

(主要事業)

事務事業名	事業内容及び点検・評価
文化センター	<p>文化サークルや地域住民の集会施設としての利用も多く、文化活動や地域づくりの拠点施設として管理運営に努めた。</p> <p>開館日数359日 利用人数23,433名(前年度比1,553名減)</p>
総合交流促進施設「元陣屋」	<p>開館日数307日 入館者9,085名(前年度比265名減)</p> <p>[図書室の利用] 利用人数 1,793名(前年度比98名増) 貸出冊数 8,252冊(前年度比90冊増)</p> <p>[展示室の利用者数] 1,004名(前年度比142名減) [各室の利用者数] 855名(前年度比82名減)</p> <p>※町の読書を普及させる拠点としての役割を強化するため、下記の事業を実施し、読書活動の活性化を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読書スタンプラリー」 借りた本についての「コメントカード」を提出することで読書スタンプを集め、10個のスタンプで景品を獲得できる事業 参加者21名 ・「おはなしポトフチャレンジ」 幼児と小学校低学年を対象とした絵本の読み聞かせやお絵かき体験、工作などの事業 毎月開催 参加者数延べ166名 ・「おはなしポトフ・プチ」 乳幼児検診時に幼児と保護者を対象とした図書の奨励事業。 全5回 参加者数延べ90親子 ・「こどもシアター」 幼児・児童向けの映像ソフト鑑賞事業 全2回 参加者数延べ40名 ・「移動図書館事業」各施設月1回程度 小中学校・学童保育・明和園での絵本の読み聞かせや本の貸し出し 全46回 貸出冊数3,110冊 こども園での読み聞かせ 全18回 <p>※令和元年度単独事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「絵本まつり」 4月20日～5月6日 参加者数延べ498名 ・「元陣屋まつり」 12月15日 参加者数74名

	<p>・「ハロウィンでトリック・オア・トリート！」 10月20日 参加者数49名 元陣屋特別展 「収蔵庫の資料から」 参加者数684名</p> <p>平成30年度から社会教育だより等を活用した情報提供や館内でのBGMを導入し、利用しやすい環境づくりを進めた。次年度以降も、工夫をこらした事業実施や、読書への関心を高める事業を実施していく必要がある。</p> <p>なお、本施設は「大正琴サークル」、「シェイプアップサークル」などの文化協会加盟団体の定期的な活動や、町民文化祭における展示部門の開催も行われており、芸術文化にも貢献している。</p>
創作の館	<p>陶芸サークル、革工芸サークルの2団体が定期利用、暑寒大学やさくらコミュニティ学級の学習活動でも利用した。</p> <p>場所的に不便さもあるが、設備も整っており、技術の向上とコミュニティ醸成の場として有効に活用されている。</p> <p>開館日数84日、利用者489名（前年度比77名減）</p>
町立体育館	<p>町民のスポーツ・レク活動の拠点とし、施設の充実と利便性に努め健康増進とスポーツの普及に努めた。</p> <p>平成30年度に内装塗装を行い環境整備に努めているが、施設の老朽化が進んでおり、長期的な整備計画が必要な状況となっている。</p> <p>開館日数は294日、定期利用団体数は6団体となっている。</p> <p>団体利用人数 4,739名（前年度比 9名増） 個人利用人数 1,395名（前年度比 707名減） 合計利用人数 6,134名（前年度比698名減）</p>
屋内グラウンド	<p>定期利用団体数は6団体で、町民のスポーツ・レクリエーション活動の拠点として施設の有効利用に努めた。特に冬期間のスポーツ振興に大きな役割を担っている。開館日数307日。</p> <p>団体利用人数 8,602名（前年度比969名減） 個人利用人数 1,099名（前年度比95名増） 合計利用人数 9,701名（前年度比874名減）</p>
温水プール	<p>町民の健康維持と体力向上が図られる施設として管理運営に努めた。しかし、施設の老朽化は進んでいるため、平成30年度に外壁・鉄骨等の改修工事を実施し、施設の整備を図った。</p> <p>開館期間5月1日～9月23日まで125日間開館</p> <p>団体利用人数 1,126名（前年度比534名減） 個人利用人数 1,583名（前年度比38名減） 合計利用人数 2,709名（前年度比572名減）</p>
学校体育館の開放	<p>中学校体育館を10名以上の団体・グループに開放し、町民の健康と体力の向上並びにスポーツ人口に対する効果的な学校施設の利用促進に努めた。</p> <p>開放時間 週4回18時45分～20時45分まで 利用団体 2団体（増毛バレーボール愛好会） （舎熊スポーツサークル）</p>

学識経験者意見

増毛小学校学校評議員 南山岩男

増毛町スポーツ推進委員 池田太郎

【学校教育】

- 教育をより効果的にするためにティーム・ティーチングや少人数指導により効果的な教科指導を図るため、教員の加配や町独自の支援員を置いていることは大いに評価される。
- 長年にわたり教育費の保護者負担軽減に積極的に取り組まれていることは大いに評価されるものであり、今後も新入学に対しての寄贈も含め継続されることを望む。
- いじめや不登校などの諸問題の早期解決や指導助言のために学校教育活動支援員を配置しているほか学習支援員の配置、特別支援教育支援員の配置など子供たちへの細やかな教育支援体制が図られていることは子供たちの健全な育成を図る上からも必要であり今後も継続されることを望む。また、最近の社会情勢から学校内だけでは解決できない場面もあるため今後は、スクールカウンセラーもしくはスクールソーシャルワーカーの配置を望む。
- 外国語指導助手を配置して、小中学校、こども園などへの巡回指導は英会話の楽しさと授業の充実を図る上で大変望ましいことである。また、巡回指導以外での活動を通じて幅広い世代の町民が英会話に親しむ機会が得られていることから今後も継続されることを望む。
- 長期休業中の学習の機会として、小・中学生を対象に教員、ボランティア指導員により、「学習サポーター」として活用し、基礎・基本問題を個々に取り組むことにより、学習の向上を図っていることは大いに評価したい。
- 子供たちが家庭学習する度合いが少ないと言われているデータがある中で、何をどのようにして学習していいのかわからない児童生徒にとって「学習の手引き」を作成されていることは、親にとっても大変助かっていると思う。
- 子どもへの読書指導は大切であり、楽しみながら読書に親しめる環境づくりのため、学校と元陣屋との連携が図られていることは望ましいことである。
- 学校給食で地産地消の普及が叫ばれている中で、増毛町でも食材の地産地消を意識している点では大いに評価したい。

【社会教育】

- 家庭教育の啓発紙「親子の時間」の継続的な配付は日常的に親子で語り合うヒントを与える情報源として家庭教育上大変有意義なことであり今後も継続を望む。
なお、インターネットを利用する機器の有用性と悪影響についての情報を提供すると良いと思われる。
- 青年層の組織づくり、成人に対する学習機会の提供、地域の若者の活性化に繋がるものでありさらに事業の工夫を凝らして継続されることを望む。さらに中学生や高校生には身近な青年層との交流が必要ではないかと思われる。
- 芸術鑑賞事業は児童生徒が日ごろ鑑賞する機会が少ない舞台、芸術を鑑賞できる貴重な事業であり今後も継続されることを望む。また、別枠でも地域住民が鑑賞できることも検討してほしい。
- 社会教育、体育施設を有効利用し、人と人との交流を深めることにより相互間のメリットも期待できるのでないかと思われる。
- 毎月「社会教育だより」が発行され、町広報の折り込みに入れられているのは社会教育の1か月の経過や翌月の予定などの動きが良く分かり大変良いことである。
増毛町の社会教育の活性化のためにも今後も続けて発行して欲しい。
- 教育委員会は、地域・学校・生涯教育やスポーツ・文化の各種事業に積極的に取り組み、成果を上げられていることは大いに評価したい。
社会教育委員会議では定期的に報告を受けて、次年度へ向けての改善点や展望を審議している面では大いに評価できる。
- 子供の健全な育成と家庭教育の低下に対応するため、「少年少女国内研修」「キッズ体験隊」「ごだらっぺ王国祭」などを通じて、教育委員会として各種事業に取り組まれていることは大変良いことだと評価している。特に「キッズ体験隊」は、3クラスに分けての事業を実施しているところで効果があると思う。
- 暑寒大学は、65歳以上の方を対象に、学習会・講演会・施設見学など趣味・レクリエーション・健康等の学習会を開催し高齢者の生きがいを見いだすように努めていることは、大いに評価したい。
最近では男性の加入者が増え、大学の雰囲気や一段と盛り上がり、活性化していることは大変喜ばしいことであり、暑寒大学のより一層の活性化を望むところである。